

2021年10月15日版

われわれ日本民衆から、本質交流の渦^{うづ}を、興しませんか？

地球公会創出研究

www.jomaca.join-us.jp/soushutsu.pdf

縄文^{ななふ} JOMONあかでみい校長 山田 学^{まなぶ}

※本稿は、以下の2本（ともに2021年5月17日版）の内容も、含め、吸収しました。〈縄文るねっさんす会議始動。〉〈あなたが想ふ未来！〉諸民族の調和へ、それを仲介させていただく、日本民族。お肚^{なか}の底からの、声とするため、旧かなにて、書かせていただきました。

〈眞智〉

地球社会において、通信と、金融と、運輸と、建築が、発達してゆく。

すると、とても残念ながら、それぞれ、特定領域の、諸国家といふものにも、限界が、生じ始めた。

なら、地球公会の創出、その可能性こそを、民衆から、研究しあひませんか。ICT (情報通信技術) 大企業などによる、監視と制御から、ではなく。

地球公会において、指導者や運営者と、民衆が、まともに調和するには、必要な、条件があります。

指導者や運営者と、民衆が、ともに、〈眞智〉を、追究しあふ。〈眞智〉とは、健康平和な、現実の認識、とします。健康平和とは、どういふことか、ほんたうに、現実を認識してゐるか。むろん、自由に、批評しあひますが。

実は、地球人、ひとりひとりに、〈眞智〉、すなはち、健康平和な、現実の認識、これがあります。当面、〈邪智〉、すなはち、病的戦争な、架空の認識（とします）、それもあります。

指導者や運営者と、民衆が、まともに調和するため、人間は、〈眞智〉、健康平和な、現実の認識、これの前に、平等であるとして。指導者や運営者と、民衆が、それぞれの〈眞智〉、健康平和な、現実の認識、のみを、調和させあひます。それぞれの、さまざまな生活や生産、から、調和させあひます。

では、なぜ、ひとりひとりに、当面、〈邪智〉、病的戦争な、架空の認識、それもあるのか。

この数千年間の、人間社会にて、必要であつたからです。この数千年間の、諸民族の闘争や、資産階級の闘争、そのために、必要であつたからです。この数千年間は、どの国家に限らず、指導者や運営者と、民衆が、実は、〈邪智〉にて、とりつくるひあふ関係、なのでした。

地球社会において、通信と、金融と、運輸と、建築が、発達してゆく。諸民族の闘争から、諸民族の調和へ。資産階級の闘争から、資産循環の調和へ。民衆から、数千年ぶりの大転換へ、接近する条件も、実は、発達してあるのです。〈邪智〉から解脱しあひ、いよいよ、〈眞智〉にて、まともに調和しあふ。地球公会創出の、その可能性についてこそ、研究しあひませんか。

〈邪智〉にて、とりつくろひあふ関係から、解脱してゆく。〈眞智〉に徹すると、ひとりひとは、〈世界対応の自由〉、これも、拡張していきうる。ひとりひとりが、〈眞智〉、健康平和な、現実の認識の、〈学問と技能と規律と体力〉、これを、自分に増す。さうして、〈世界対応の自由〉、これを、拡張していく。

ところで、わたくし自身（1956年3月生れ）は、学者風ですが、先述の、民衆から、数千年ぶりの大転換へ、接近する条件を、発見できました。なぜなら、いはば〈邪智〉時代の、今までの学界と、無縁だから、なのです。20歳代前半、コンピュータと人間の関係に、深く深く、悩みました。あへて学界にとらはれず、自分なりに、思ふ存分、追究しようと、在野の学者を、志しました。最終学校歴は、東京大学工学部中退です。それ以降も、自分が眞剣に、師として学び続けてある、9名の方がたが、全員日本人ですが、1～2名の方を除き、学界の権威ではないのです。大転換への、指導とは、どういふものか。運営とは、どういふものか。まったく新鮮な、視野と方針を、ご提供いたします。

人間は、世界のすべてを、認識し尽すことは、できません。また、世界のすべてを、認識しうる存在を、あへて想定する必要も、ありません。たかだか、この数万年間、さまざまな生活や生産、から、世界の部分を、認識してきました。これからも、同じことです。そのことに、感謝します。

それでも、世界は、あるいは、世界の諸分野は、現象と構造と本質の、統一です。ひとりひとりには、それぞれ、さまざまな生活や生産、から、現象の認識や、構造の認識や、本質の認識が、あります。それらを、〈眞智〉、健康平和な、現実の認識、この立場から、自覚的に、組織していきあふ。〈眞智〉の世界学を、発達させあふ。未来にある協同は、思考統合の面にて、学問発達体なのです。民衆は、比較として、現象の認識が、強い。運営者や指導者は、比較として、構造の認識や、本質の認識が、強い。さういふ、役割分担としての、社会組織論です。

〈聖愛〉

〈眞智〉により、〈聖愛〉しあふ。〈聖愛〉とは、健康平和な、生活協力、とします。〈眞智にて聖愛〉。数千年ぶりの大転換へ、とは、その悦びへの、勇氣です。おたがひの生活と人生、それぞれの個性を、尊重しあひます。

〈聖愛〉、すなはち、健康平和な、生活協力こそを、発達させる。とともに、
〈俗争^{ぞくさう}〉、すなはち、病的戦争な、生活妨害（とします）は、衰退させる。〈聖愛〉と〈俗争〉の、対立と連関。

健康平和な生活の、生産力こそを、発達させていく。とともに、病的戦争な生活の、生産力は、衰退させていく。発達させる生産力と、衰退させる生産力の、対立と連関。文明開化にあつた、善と悪の、対立と連関。

労働力、といふ商品。通常商品。貨幣、といふ商品。これらを媒介とし、地球人おたがひの、健康平和な生活、これをこそ、生産しあつていく。

今の生産力が、新しい生産関係を、要請する。病的戦争な生活の、生産力による、被害者。かれらこそが、健康平和な生活の、生産関係を、要請していく。

未来にある協同は、生体協力の面にて、生産調和体なのです。

家庭とは、協会です。恋愛と出産と保育と教育といふ、特殊な労働、それと、生活の休養面、これらのための、協会です。さう、考へます。

同好会とは、休養協会です。職場の分業労働、これを修正する、保健的な労働、また、職場の分業認識、これを修正する、保健的な認識、これらのための、休養協会です。さう、考へます。

職場とは、生活の労働面のための、協会です。地球人おたがひの、健康平和な生活こそを、目的とする、生産調和体。それへ向け、自由に創造していく。さう、考へます。

家庭と同好会と職場の毎日。地球の諸域の毎日。において、おたがひの健康平和な生活こそを、研究しあふ。健康平和な需要、それを発見しあひ、それらに有効な供給こそを、開発しあふ。ケインズ発想の、逆です。しだいに、人間社会の供給体制を、希少者の、資産増殖といふ目的から、全員の、資産循環といふ目的へ、再編していきあふ。次の社会への、再編。むろん、供給体制の根本として、地球環境のあり方が、ある。最低費用にて、野性の復興を、する。また、ICT（情報通信技術）。クラウドや、PC・モバイルや、AIや、ロボットや、IoTなどの、開発可能性。これについても、未来にある協同への、意識と責任から、判断していく。AIやロボットなどが、便利な道具と、なるにつれ、人間側にて、生活や人生の本質が、考究されるでせう。

〈生理化〉

数千年ぶりの大転換へ、ひとりひとりの生活を、〈生理化〉していく。〈生理化〉とは、次とします。苦しみ悩みこそを、導きの糸とする。自身の生理のままに、生活を修正し、楽しみ悟りに、接近する。ひとりひとりの、四六時中瞬間瞬間にて、個性別の、苦しみ悩みも、生じます。これをこそ、導きの糸とす

る。自身の生理のままに、生活を修正する。生活は、姿勢動作、呼吸、食事と排泄、人間関係とくに異性関係、精神、生活環境。この、全面です。すると、個性別に、楽しみ悟りに、接近します。人間の、健康平和、からだところの健康と、ところと社会の平和には、自身の生理のままに、生活を修正する。これが、必須です。保健は、^{ぐだう}求道であり、修業です。生体の各部分の協同を、回復し、保持することです。地球人がおたがひ、安心の呼吸を、追求しあふことです。〈生理化のため眞智にて聖愛〉しあふ。

この数千年間の、諸民族の闘争や、資産階級の闘争にて、ひとりひとりの〈生理化〉は、実は、解放されませんでした。ひとりひとりの生活が、〈^{あくごふ}悪業化〉されました。〈悪業化〉とは、次とします。諸民族の闘争や、資産階級の闘争にて、ひとりひとりの〈生理化〉が、抑圧された。苦しみ悩みを、「有つてはしくないもの」とし、逃げるのが、すすめられた。導きの糸を失ひ、保健、求道、修業が、抑圧された。生体の各部分が、不調和となり、悪業となつた。すなはち、姿勢動作のゆがみ、呼吸の不完全、食事や排泄の悪習、人間関係の無理、精神の誤り、生活環境の不適。他物への頼りすぎ。

この数千年間の、〈悪業化〉から解脱し、ひとりひとりの生活を、〈生理化〉していく。導きの糸たる、苦しみ悩みに、感謝します。〈苦しみ悩みに感謝します。〉が、大転換への、入門。

ひとりひとりの〈生理化〉が、諸民族の調和への、資産循環の調和への、土台。

ひとりひとりの〈生理化〉による、生活修正が、保健、求道、修業が、すなはち、個性別の、道徳なのです。未来にある協同は、情感安定の面にて、道徳共同体なのです。道徳といふ生活規範は、個々人に属します。道徳共同体の運営や指導にて、可能なのは、道徳そのものでない。道徳案、道徳の提案のみです。

ひとりひとりの〈生理化〉は、生理的進化としての、体内感覚にもとづく。快か、不快か。体内が、調和してあるか、ゐないか。無^むといふ、理想。不快が無い。体内の不調和が、無い。これを追求する、理想。苦しみ悩みこそを、導きの糸とする。姿勢動作は、これでよいか。呼吸は、これでよいか。食事と排泄は、これでよいか。人間関係とくに異性関係は、これでよいか。精神は、これでよいか。生活環境は、これでよいか。自身の生理のままに、冥想する。生理にしたがふ、悦び。呼吸は、楽か。脈は、ととのつてあるか。気分は、よいか。安眠も、工夫する。

世界の現実を反映してある認識、それが、現実の認識である。世界の現実を反映してゐない認識、それが、架空の認識である。ただし、人間の健康平和に

とり、それが架空の認識であると、自覚した、架空の認識は、有益であることも、ある。それは、睡眠中の夢や、覚醒中の芸術内容などにて、ある。

おたがひの実力不足を、お詫びしあひつづける。生活と生産の、すべてのご縁を、ありがたく、受け取りつづける。地球人はおたがひ、世界、すなはち、体内と体外と認識じたい、すなはち、生活と生産と自然と宇宙、に、感謝し、対応ないし適応していく。

食欲や、性欲や、資産欲や、地位名誉欲。それらの量を、希少者としてのみ、悲しく、高めるより、それらの質こそを、全員協同として、楽しく、高めあふ。

KJ法とICT

今、資本制人間社会は、末期にあり、米国も、中国も、経済と政治が、不安定です。(米国にも、中国にも、本質解決は、不可能でせう。昔の、ナチス風や、ソ連風などを、再現してみても、無理があります。) 日本社会にて、わたくし、山田 学が、思索と情念の体系を、準備してをります。諸民族の調和へ、資産循環の調和へ、地球公会の創出が、どう可能か。本格の変革は、意外なところから、閑かにしか、出現しません。自由に探検し、情報を集める。それら情報を、内容本位にて、自然に編集していく。すると、既成の思ひ込みなどから、解脱することも、多い。集める情報が、民衆のさまざまな声なら、民衆参画の方法。KJ法と称する、この、思索と情念の技能・技術は、民族地理学の、川喜田二郎師 (1920~2009) が、まづ、その学問の必要から、創始された。KJ法の、〈内容本位にて、自然に編集していく〉過程が、ICTの、OSないしAPIなどの水準にまで、まだよく浸透してゐない。さう、考へられます。

わたくしの研究事務は、基本、KJ法とその応用です。

日本民族の伝統を、反省する。諸民族の調和へ、仲介のあり方も、創造する。民族地理学とKJ法も、活用しつつ。民衆参画の方法として、未来にある協同は、情念融和の面にて、民衆通信なのです。指導性や運営性と、民衆参画を、調和させてまゐります。

〈生理化のため眞智にて聖愛〉。かういふ、根源発想の、指導性と運営性。これが、ICT上にて、わかりやすく活動するやう、交流と組織のためのICTを、変革していく。今までのSNSなどは、衆愚傾向が、助長されてゐるのでないか。(その上にて、監視と制御の、助長。) 破壊のための、煽動より、創造のための、熟議と、それを促進する、新たなICTがほしい。なほ、現状を批判してゐるだけで、よい。さういふ人は、ある意味にて、怠け者なのかもしれません。

未来にある協同への、意識と責任においてこそ、社会 (すなはち、規範と学

問と祈りと芸術と養生) の、全体構成観から、必要な、ICT開発を、していく。この前人未踏状態から、悠久壮大水準にて、効率よく。DXにより経済成長を、と、近視眼でなく、日本社会と地球社会の、成熟方針として、本質的かつ柔軟な、基礎情報学を。思索と情念の集りへ。いよいよ、〔次の別の地球へ夢なかま〕に、なりませんか。

なほ、優れた統計器たる、今のAIに、さらに、人間が、〈眞智〉、健康平和な、現実の認識による、世界の分類や、世界の部分の分類を、書き込む。それにより、熟議も、促進したい。

もうひとつの、公共

既成の諸国家に、とらはれる必要は、ありません。未来にある地球協同への、意識と責任から、われわれが、保護され推進されるやう、諸国家には、対応してまゐります。

この数千年間、国家といふものは、誠に残念ながら、部族ないし民族闘争と、資産格差拡大のための、組織として、発展したのです。社会の敵対性こそを、保護し統制する、伝統だったのです。

社会の敵対性、そのものを、しだいしだいに、解決していく。さういふ、もうひとつの、公共。これをこそ、民間から、創造してまゐりませんか。情念融和のためです。(たとへば、ロシア・北朝鮮・中国などと、戦争をしたい。その謀略は、絶対に、阻止します。) 既成の国家や政治。これについて、未来にある地球協同へ、継ぐべき内容は、保存し、問題な形式は、否定する。すなはち、政治解消世論も、結集していきあひませんか。闘争から、調和へ。民衆の生理の、必然として。

資産格差の拡大は、〈信用寄付〉によつてのみ、解決します。ただの寄付では、不可。〈信用寄付〉とは、次のみに、活用されることが、保証されてゐる、寄付。すなはち、健康長寿を生産しあふ、流通。野性の復興。諸民族の調和。

なほ、地球人は、宇宙にて、後進生物にすぎぬ、のです。

宇宙人に、教へてもらつた、などの、未来的な、エネルギー技術などが、すでに、米軍の裏などに、ある。さういふ説も、あります。

思索と情念の集りへ

わたくし、山田 学の、他に類をみない、思索と情念の豊かな体系が、なぜ、あるか。なぜまだ、孤高の準備にすぎぬのか。(ある意味、隠された状態。)

わたくしは、16歳 (高校2年生時) から、自由に、学問してまゐりました。ある意味、超常現象的に。

アリストテレス、ヘーゲル、マルクス、エンゲルス。

続いて、三浦つとむ、滝村隆一、吉本隆明、渥美俊一、高橋五郎。

一方、シャカ、ガンジー。

続いて、沖 正弘、川喜田二郎、庄司和晃、山田^{としを}俊郎。

実は、今は忘れられた、学問と、修業の、王道です。(パートランド・ラッセル以降、まともな意味の、哲学性や、宗教性が、忘れられてゐる。これでは、QOL Quality of Life、生活や人生の質に、限界。)

日本人9名の師は、わたくしが発見した、未来への師たちです。学界といふより、在野の士が、多い。

このうち、わたくしの実父・山田俊郎師が、発明した、〈TQ技術〉をめぐる営業が、わたくしの、主な収入源です。〈TQ技術〉は、氣功の工業化であり、アジア診療の結晶点です。JOMON^{縄文}あか데미サイト www.jomaca.join-us.jp は、〈TQ技術〉の社会化と学問化のため、総合研究記録として、発達させてみます。結果、〈地球公会創出研究〉としても、発達してゐます。

昨年から、コロナ禍その他があり、〈TQ技術〉より、〈地球公会創出研究〉のはうに、重点を置き始めました。本年7月後半、新型コロナワクチンが、予想以上に、問題含みと、気づきました。ので、本稿の執筆と公開を、急ぎました。(地球民衆の覚醒と協同を、急ぐ。)

JOMON^{縄文}あか데미は、任意団体です。法的には、山田 学 (本名・山田^{てつ} 哲) の、個人事業です。

なほ、山田 学 (哲) は、日本国民であり、横浜市民であり、経営する有限会社の本店は、名古屋市にあります。それらの法律や条例による、統制と保護のもとにあります。が、それ以外、わたくしに命令する者は、をりません。

在野の学者としての、山田 学 (哲) が、孤高なのは、思索と情念の体系が、今は、たまたま、非常識と異端、だからです。むろん、わたくし自身は、常識人に頼らぬ、ととてもとても狭き門にのみ、ひとすぢの希望があると、冥想しつつ、すべてを、推進してをります。

地球社会の現状が、本稿の執筆と公開を、決断させました。CFR (外交問題評議会) や、ダボス会議などによる、(聖書にとらはれた)「終末演出」や、「世界政府」や、「新世界秩序」などには、〈大転換への悟り〉が、無い。(欧米や中国などの、エリートは、現行のICTや、遺伝子工学などに、とらはれすぎてゐないか。)

民衆から、〈生理化のため眞智にて聖愛〉しあふ。さういふ、厳格さへ。

山田 学の、思索と情念の体系を、次の社会への、思索報道ないし情念報道として、交流と組織を、発達させる。(この新しさを、明るみに、出す。) ICT

によるやりとり、ICTによる面会、実際の面会、合宿など。協力していただ
けませんか。民衆健康平和連帯。これを構築する、といふ、問題解決。今でなく、
未来の、常識と正当へ、つづけ。人間社会発達の、新機軸。

〈生理化のため眞智にて聖愛〉。根源発想の、交流と組織のためのICT開発
は、将来の話です。さしあたり、本稿に関心、興味、反発などのある方がたか
ら、山田 学の以下の連絡先へ、直接、ご連絡いただけませんか。

(メール) arigatou@image.ocn.ne.jp

(FAX) 045-319-0920

(郵便) 〒221-0822横浜市神奈川区西神奈川1-13-14-307 山田 学

山田 学の非公開メールを、ご存じの方は、そちらへでも。

JOMONあかでみい (任意団体) の、中心活動として、〈地球公会創出研究〉
に、協力していただけませんか。山田 学の、思索と情念の体系を、活しつつ、
地球公会を創出していく可能性、それについて、研究しあひませんか。無理な
く、無駄なく、一定の実行も、しませんか。〈生理化のため眞智にて聖愛〉。根
源発想を、理解しあひ、無理なく、無駄なく、実行しあひませんか。われわれ
日本民衆から、本質交流の渦を、興しませんか？ (この20年あまりの、売国的
な日本政治から、解脱するためにも。戦後の経済復興にて、さしあたり、あと
まはしにした、思索と情念といふ、インフラ整備を。)

〈地球公会創出研究〉のための、ICTによる面会、実際の面会、合宿などを、
〈縄文るねっさんす会議〉と、称することもあります。日本民族の伝統を、反
省する。諸民族の調和へ、仲介のあり方も、創造する。日本民族の野性の復興、
これの表明として、〈縄文るねっさんす〉です。欧米流や、中国流ではなく、
縄文流の、地球平和へ。

未来にある地球協同へ、思索と情念の集りへ、次の、悠久壮大な質問から、
入門していただく。

第1問【規範へ】

本稿 〈地球公会創出研究〉 www.jomaca.join-us.jp/soushutsu.pdf と、

〈地球人の規範へ〉 www.jomaca.join-us.jp/chikyu_kihan.pdf を、

ゆつくり、ゆつくり、お読みいただけませんか。

これらは、地球未来協同への、ご提案です。あなたは、このご提案を、
ほんねにて、どう想はれますか。

第2問【信念】地球の未来は、かうなる… あなたの、信念のやうなものは、
ございますか。

第3問【UFOなど】UFOや宇宙人について、どう、想ひますか。

第4問【諸民族】諸民族が、調和できると、想ひますか。いつかは、調和できるとして、あなたなら、なにをしますか。

第5問【資産格差】地球の資産格差を、縮小できると、想ひますか。いつかは、縮小できるとして、あなたなら、なにをしますか。

第6問【環境】地球環境を、整備できると、想ひますか。いつかは、整備できるとして、あなたなら、なにをしますか。

第7問【質】人生の質、生活の質とは、なんですか。それを高めるため、あなたなら、なにをしますか。

第8問【日本民族】日本民族を、どう、想ひますか。地球未来協同に、寄与できると、想ひますか。

第9問【政治】政治の今後を、どうすれば善いと、想ひますか。

第10問【報道など】マスメディアやインターネットの今後を、どうすれば善いと、想ひますか。

さて、山田経営有限会社を起点とする、〈TQ技術〉をめぐる営業とは、別に、資金余裕のある方は、JOMONあかでみいへ直接、ご寄付も、いただけませんか。〈地球公会創出研究〉の展開を、早めさせていただきます。ご寄付のお振込は、以下の銀行口座に、お願いいたします。

三菱UFJ銀行 横浜駅前支店 普通預金 3100071 ^{ヤマダ テツ} 山田 哲

必要なお連絡は、先述の連絡先へ、お願いいたします。

未来にある地球協同へ、思索と情念の集りへ。〈大転換への悟り〉。〈地球公会創出研究〉こそを、先進の好感事業に、育てませんか。(希少者の、金融業から、全員協同の、公会創出事業へ。) 本稿を起点に、本格の変革を、閑かに、ひろめていただけませんか。むろん、責任は、わたくしがとります。わたくしは、救世主ではない。ひとりひとりが主役の、民衆救世協同。これを、運営させていただき、指導させていただきます。それにふさはしい、人間本位の、ICT開発とともに。

以上は、簡単ではないが、未来への安心の、本質です。次の社会への、大欲です。

さまざまな情報戦にて、米国を中心に、むしろ、〈邪智〉、病的戦争な、架空の認識を、マーケティング手法により、なにげなく、売り込む。それが、助長されてある、今の、末世にて。ドナルド・トランプを、先頭とした、米国民衆抗議に、つづく。

純情な、性善説の、試み。リセットではなく、渾沌をして、語らしむ。

未来の世界を日本から。

〔文献〕本稿執筆のため、以下の文献を、参考としてをります。

地球社会の現状について。

ベンジャミン・フルフォード『一神教の終わり悪魔の13血族とバビロニア奴隷管理帝王学の崩壊』(秀和システム2021年8月)

副島隆彦監修・西森マリー著『世界人類の99.99%を支配するカバールの正体』(秀和システム2021年7月)

西森マリー『新版 ディープ・ステイトの真実日本人が絶対知らない アメリカ“闇の支配層”』(対談・副島隆彦／秀和システム2021年7月)

高橋 徳・中村篤史・船瀬俊介『知らないほうが……幸せかもしれないコロナワクチンの恐ろしさ良心派医師が心底憂慮する理由』(成甲書房2021年7月)

高島康司『グレート・リセット前夜2025年の世界と支配者たちの最終工作』(徳間書店2021年4月)

斎藤幸平『人新世の「資本論」』(集英社新書2020年)

増田悦佐『資産形成も防衛もやはり金だ』(WAC BUNKO2021年2月)

吉田繁治『臨界点を超越する世界経済通貨と金をめぐる4大危機に備えよ』(ビジネス社2019年)

吉田繁治『アフターコロナ 次世代の投資戦略財政・金融の危機を資産づくりのチャンスに変える』(ビジネス社2020年)

吉田繁治『新しいチェーンストア戦略 新装改訂版大閉店時代に勝ち残る唯一の方法』(ビジネス社2021年1月)

小阪裕司『「顧客消滅」時代のマーケティングファンから始まる「売れるしくみ」の作り方』(PHPビジネス新書2021年3月)

原 丈人『「公益」資本主義英米型資本主義の終焉』(文春新書2017年)

深田萌絵『ソーシャルメディアと経済戦争』(扶桑社新書2021年5月)

ICT (情報通信技術) の基礎について。

坂村 健『痛快！ コンピュータ学』(集英社文庫2002年)

坂村 健『イノベーションはいかに起こすかAI・IoT時代の社会革新』(NHK出版新書2020年)

坂村 健『DXとは何か意識改革からニューノーマルへ』(角川新書2021年4月)

西垣 通『新 基礎情報学機械をこえる生命』(NTT出版2021年6月)

黒川伊保子『人間のトリセツ人工知能への手紙』(ちくま新書2019年)

人間の健康と平和について。

沖 正弘『生きている宗教の発見だれでも悟り救われる沖ヨガ修行法』(竹井出版1985年)

沖 正弘『ヨガ総合健康法沖ヨガの考え方と修行法(上)』(地産出版1976年)

沖 正弘『なぜヨガで病気が治るのかヨガ総合健康法(中)』(地産出版1977年)